種名	マ　ル　タ　ニ　シ Cipangopaludina chinensis laeta
分類	原始紐舌目タニシ科
俗称	ﾀｧﾝﾅ(沖縄)、ツブ･タツブ･タツボ･タヌシ(日本各地、タニシの総称)
形態的な特徴	殻高は 60mm、殻径は 44mm 程で卵円形の巻き貝。全体的に丸みがあり、殻は薄く、色彩は緑黒褐色で蓋は黄褐色で内側はなめらか。オオタニシ、ヒメタニシに似るが、螺層が膨らむことで区別できる。
分布	北海道南部、本州から九州、沖縄の各地に分布する。
繁殖行動	繁殖は卵胎生で6～8月頃に行われ、20～30 個の仔貝を持つ。雌雄異体で触角の先が片方巻いている方がオスである。寿命は3年ほどといわれている。乾燥に対する耐性は強く、冬季には蓋をしっかり閉じて泥の中などで越冬する。
生息場所	水田や池沼、潟などにすみ、水域の底などで殻に泥をかぶった状態でみられる。オオタニシに比べて海に近い平野部の水田などに多く生息するという傾向がある。
食性	餌は泥底や植物などに付着した藻類やデトリタスを食べる。
生息環境への配慮事項	食用にしている地方もあり昔からなじみの深い貝類で、養殖している地域もある。普通食用にするタニシは本種のみである。不適切な農薬使用などによる水質汚染や、近年の農業形態の変化に伴い個体数は減少している。沖縄では絶滅状態に近い。本種はおもに水田域に生息していたために不適切な農薬使用が減少の大きな要因になっている。そのため、本種を保護するには生息環境を悪化させない程度の適切な農薬使用が望ましい。
その他	準絶滅危惧(新潟県ＲＤＢ)　準絶滅危惧(環境省ＲＤＢ)
引用文献： http://www.maff.go.jp/nouson/mizu_midori/menu/main.html を改変	